

第5回森林づくり体験ツアーを実施



苗木園で育てているイスノキの種を紹介



ペレット工場の視察



後別当て植樹体験



川上周一さんによるチェーンソー体験

第5回森林づくり体験ツアーを10月13日（金）から15日（日）の日程で開催しました。このツアーは林業の担い手確保のために梶原町の魅力を知ってもらうことを目的としており、今回は男女2名と梶原高校の生徒1名にご参加いただきました。

この3日間で参加者の皆様には、伐倒現場の見学や植樹体験、チェーンソー体験などの現場体験から、製材所やペレット工場、苗木園、町中の木造施設の見学まで、もりだくさんの内容で梶原町の森林づくりの現場を体験していただきました。

植樹体験では後別当てにて、ReMORI会員の松山榮喜さんに指導していただきつつ、イロハモミジの苗木10本を植えました。参加者の皆様にとっては慣れない山での作業でしたが、いい汗をかいて達成感を得ていただいたものと思います。

また、同じくReMORI会員の川上周一さん、政志さんと川上博史さんの現場へもお邪魔し、伐倒施業の見学や、チェーンソーでの玉切りを体験していただきました。中でも、急峻な地形の多い梶原ならではの架線集材の様子に非常に興味をもたれていました。

ツアー中には現役の地域おこし協力隊員とも交流いただき、梶原町での活動状況や暮らしについての話から、移住後の暮らしをイメージしていただきました。また、参加者の方から他地域の林業の取り組みなどのお話も伺い、我々にとっても非常に有意義な情報交換の場となりました。

参加者の皆様には3日間非常に熱を持ってツアーに臨んでいただき、梶原町の森林づくりにも共感いただけた様子でした。

今後もこうした活動を継続していき、梶原町の林業の担い手確保に努めて参ります。ツアーにご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

今回のREPORTER-リポーター-



梶原町役場 森林の文化創造推進課
辻本 修丞-Shusuke Tsujimoto-

役場入庁5年目。普段の業務は町有林の施業発注や、協働の森づくり事業などを担当しています。梶原町の森林づくりの魅力について、町内外の皆様へお伝え出来るように頑張ります！

04

NOVEMBER 2023 | VOL 17

RemORI MONTHLY /

2023年11月号
vol.17
IN ゆすはら

林業情報を発信！
りもりマンスリー

青山長官から宿題が出た！

林野庁長官の青山氏とReMORIが協議！
笹岡 高志 | p.02

KIRecub-きりかぶ-苗木園の除幕式

KIRecubの広葉樹の苗木園がスタート！
下村 智也 | p.03

第5回森林づくり体験ツアーを実施！

体験ツアー3日間の様子をレポート！
辻本 修丞 | p.04

01 REMORINEWS

リモリマンスリー
ホームページに掲載！

2022年5月から毎月発行しているリモリマンスリーですが、バックナンバーがReMORIのホームページから読めるようになりました！
毎号の記事は、ReMORI会長の笹岡さんと内容案を相談しながら、編集は角金・長谷川で担当していました。Vol16からは荒木・長谷川で編集しています。
より読みやすいように毎号工夫してまいりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします！



梶原町森林再生プロジェクト
「りもりチャンネル」

りもりの活動やイベント風景、協力隊のPR動画などを配信中！



KIRecub-きりかぶ-チャンネル

新たに立ち上げました！活動風景やイベントの様子などを配信予定！



03 Instagram

ゆすはら地域おこし協力隊

リモリメンバーが林業を通して梶原町の魅力を発信中！



下村智也



山口佑貴



長谷川夏輝



荒木俊充



吉井香在



Coming Soon

KIRecub-きりかぶ-

造林事業をメインに立ち上げた組織「KIRecub（きりかぶ）有限責任事業組合」です。林業ももっと面白く活気のある産業になるように様々な事業も展開していきます。



ゆすはら森のおさんぽ会

梶原の豊かな自然を活かした、自主保育型「森のようちえん」活動。協力隊の荒木俊充が妻とともに、4歳と7歳の子どもたちを連れ、町内各地で活動中。参加者随時募集中！0歳からどなたでも参加していただけます。一緒に自然を満喫しませんか？



WOODNEIGHBORS-ウッドネイバース-

協力隊を卒業した角金玄が個人事業主として開業。ロープクライミングで樹上へアクセスし住宅や公共施設、神社仏閣などの樹木の伐採(剪定)を事業としています。



Coming Soon

Coming Soon



◆編集・発行：梶原令和の森林づくり協議会 ReMORI-リモリ- 長谷川・笹岡
◆お問い合わせ：森林の文化創造推進課 ◆お電話：0889-65-0811
お気づきの点、ご意見・ご要望がございましたら上記までご連絡ください。

リモリマンスリーの
これまでの記事はこちらから



青山長官から宿題が出た！

6月下旬、吉田町長から「(農林水産省の)青山(農村振興)局長が7月4日付で林野庁長官に就任するそうです」の速報メールを受けた。栲原に所縁の人が長官になる。その後、上京した町長と土釜議長らが新長官にお会いし、来町要請と日程調整が始まった。

林野庁と栲原町の間で職員交流が始まって、30年以上が経過する(現在の出向者は畠義博さん)。林野庁からの第一号が青山豊久さんだった。氏はまだ二十歳代で、高知放送報道部員の小職は三十代後半だった。町職員の紹介でお会いできた。知識が幅広く、感覚の鋭い「キャリア官僚の卵」と感じた。氏は政策通として、順調に階段を上った。歴代の町長や議長からその動向を聞いた。頂いた「長官内定」の町長メールは嬉しく、胸の内を拍手を送った。

新長官の高知県初視察は10月に実現し、栲原、仁淀川と佐川町訪問の日程が組まれた。12日午後、青山長官は栲原に入り、伐採現場と森林組合の製材部門などを視察。KIRecub-きりかぶ-が取り組む苗木園の除幕式で参加者に挨拶した。「若い頃、この地で林業の基礎を教わりました。木々の名称、材積の推定、機械の使い方。いずれも懐かし、有難く思い出します」。

「私の建築の原点は栲原です」と語る建築家・隈研吾氏と同様の想いを抱いている人だと思った。

除幕式で30年ぶりに聞いた青山さんの声、爽やかな挨拶が多くの方の胸に届いた。「苗木園のどんぐりをしっかり育てて下さい」と締めくくった。



苗木園の除幕式では長官に種まきもしていただきました



この日の私は、式後に行われる意見交換会の司会を仰せつかった。林野庁からの付き人、県林業の幹部が見守る中、町側も町長・議長をはじめ林業関係はReMORI・CoMORI・協力隊と主要メンバーが一堂に会する。準備はしたが、会議進行の荷は重かった。出席者に率直な報告を求め、長官に栲原の現状を理解してもらおう考えていた。ところが、予定時間の半分が過ぎた頃、長官から手が上がった。

「銀座に木造の高層建築が立ち始めた。その建物に環境を重視する会社や店舗が入っている。脱炭素では先日、新たな取引市場が開設された。時代は大きく動いている。期待に応えよう」

一現状報告が長過ぎたか？ 長官は結構、はしかい！※

※はしかい・・・動作や頭の動きが速いが、気が短い



除幕式とは違い、畳みかける口調。新長官の決意表明だった。林野庁も頑張る。栲原も頑張れ。長官の指摘は厳しい現状にひるまず、資源を活かす新たな戦略を組めと聞こえた。

環境モデル都市・栲原町への叱咤激励であり、ReMORI会長の私は「大きな宿題」と受け取った。

その実現には総合力(密な情報交換と連携)と突破力(トップ営業)が欠かせない。チームを編成し、練り上げた策を上京した町長・議長が長官に上申し、新たなサポートを依頼する。これを繰り返すことで、栲原の森林づくりと林業を前に進める。30年ぶりの再会は、(私に)最期の仕事を命じてくれたようだ。精一杯努めたい。

今回のREPORTER-リポーター-

栲原令和の森林づくり協議会「ReMORI」会長 笹岡 高志 -Takashi Sasaoka-
高知市生まれの73歳。高知放送を退職後、週2回のペースで、栲原町を往復。8年が経過。栲原町産業担い手育成塾長(森林づくり)を経て、栲原令和の森林づくり協議会長。子ども3人、孫6人。拙宅は時々、孫たちで大賑わい。本日は静かです。



もっとFEATURE-フィーチャー-



林野庁長官 青山豊久 -Toyohisa Aoyama-
栲原町における、全国初の棚田オーナー制度の創設(1992年・平成4)に力を発揮していただくなど、栲原とゆかりの深い方。令和5年7月に林野庁長官に就任。

※写真は日本経済新聞より

KIRecub-きりかぶ-苗木園の除幕式

ゆすはら地域おこし協力隊、KIRecub-きりかぶ-有限責任事業組合代表の下村です。10月12日(木)、ゆすはら座横の町有地にて、林野庁の青山長官・栲原町長・ReMORI役員の皆さまをお招きし、私たちが立ち上げた『KIRecub-きりかぶ-苗木園』の除幕式を執り行いました。こうして無事に苗木園をスタートすることが出来たのも、日頃からご指導いただいております、町長はじめ役場の方々、町民の皆さまのおかげと存じ上げます。本当にありがとうございます。



私たちKIRecubは、地域おこし協力隊の活動外で昨年10月より任意団体として発足し、本年4月より有限責任事業組合としてスタートしました。「人と自然との共生」という志のもとに、栲原町の造林・育林事業を生業としております。KIRecubの名称の由来は、KIは立木を意味し、Reは再生、cubは英語で見習いを意味します。私たちはまだまだ小さい存在ですが、これから苗木と一緒に育っていくことで立派な大木のような存在になりたいという想いを込めています。ちなみに、名前を決めたあとに知ったのですが、栲原町の「栲」という漢字は訓読みで「きりかぶ」と読むそうです。不思議な縁を感じます。

この苗木園が出来た経緯としては、広葉樹の苗木は、スギ・ヒノキの苗木に比べ、全国的に生産量が少なく、地域によっては県をまたいで苗木調達を行っており、栲原町においてもそれは同じ状況のため、「地域性苗木(その地域の種(どんぐりなど)から育てた苗木のこと)を植栽したい」という思いに対して、本年3月にお亡くなりになった、坂本龍一氏が創立、現代表を隈研吾氏が務めるモア・トゥリーズ様の多大なるご支援により実現しました。

そして苗木園の看板には、栲原町永野に所在します河内白王(かわうちはくおう)神社の夫婦杉の折れた枝材を使用し、屋根には伐採したスギから自分達で皮を剥がして貼るなど、町内の材を利用した手作りとなっています。こうしたことが出来たのも町内の川上製材所様をはじめ、森田工務店様、柴田運送様のご指導・ご協力のおかげです。ご協力頂きました皆さま、誠にありがとうございます。



今後の目標としましては、栲原町の地名の由来にもなったイスノキや町内の子ども達と一緒にコナラなどのどんぐりを拾って育てて、今年には苗木を2,000本、5年以内に年間10,000本の生産を目指していきたいと思っております。

私は今後、この苗木園が町内の皆さまに愛されることはもとより、町内の皆さまと一緒に苗木を育てて成長の喜びを分かちあっているような場所になって欲しいと望んでおります。まだまだ未熟ではございますがKIRecub一同、精一杯努力してまいります。これからも皆さま方にはなにかとお世話になるかと思いますが、変わらずご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



青山さんと皆さんで記念写真

今回のREPORTER-リポーター-

ゆすはら地域おこし協力隊/KIRecub 代表 下村 智也 -Tomoya Shimomura-

高知県高知市出身の地域おこし協力隊2年目。両親の出身が栲原町ということもあり、家族3人で広島から移住してきました。協力隊で技術を学ぶ傍ら『KIRecub-きりかぶ-』を立ち上げ、造林・精油・森林イベントなど様々な事業に取り組んでいます。

